

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471901731	事業の開始年月日	平成15年4月1日	
		指定年月日	平成15年4月1日	
法人名	社会福祉法人 宗得会			
事業所名	グループホームつばき			
所在地	(〒238-0311) 横須賀市太田和2-10-3			
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
定員等	認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成24年5月1日	評価結果 市町村受理日	平成25年4月24日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「MMA」というケア方針「見逃さない、見捨てない、あきらめない」の実践を職員一丸となって取り組んでいる。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成25年2月7日	評価機関 評価決定日	平成25年4月23日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の概要】 当事業所は京浜バス林停留所から徒歩で15分の所にある。林停留所までは、京浜急行横須賀中央駅、YRP野比駅、JR横須賀線逗子駅からバスが出ている。敷地内には法人の運営するデイサービスがあり、道を隔てて法人の特別養護老人ホームもある。駐車場を含め広大な敷地にゆったりと建てられ、中庭には桜やさざんかの木があり、居間から四季折々の花が楽しめるように作られている。設立から10年経つが、利用者も職員も開設当時からの人が多い。</p> <p>【理念にもとづいた支援】 開設時に職員で作った理念のほかに「MMA、見逃さない・見捨てない・あきらめない」をスローガンに認知症ケアの実践にあたっている。実践の記録を県や全国のグループホーム協会の研修大会で事例発表として行い、認知症の理解を深めている。一人ひとりの多様な症状から本人本位の生活の質を問う取り組みは、高い評価を得ている。</p> <p>【清潔で健康な暮らし】 障がい者就労支援として開設当初から衛生担当の方がおり、トイレや居間、廊下の掃除や消毒をこまめに丁寧に行っている。食事は健康のあかしと考え、品数を多くし食事にはこだわっている。「好きなだけ好きなものを」という考えのもと、利用者の好きなものや食べたいものを中心においしく食べられる工夫をしている。利用者は風邪をひくことなく、元気に過ごしている。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームつばき
ユニット名	ユニットさざんか

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域におけるグループホームの存在意義や入居者及びその家族の思いを踏まえた理念を施設内研修で確認し共有しながら実践している。	10年前の設立時に職員と作ったケア理念とケア方針がある。現場では「MMA」と称して「見逃さない・見捨てない・あきらめない」心得を忘れずケアにあたっている。事業計画を立てる3月の研修会に毎回理念の話をしている。利用者家族にもスローガンとして「MMA」は浸透している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	家族会や事業所会議を通じてグループホームのケアを理解していただいている。また日常生活においても散歩や買物地域行事などを通して交流を深めている。	町内会に加入し、利用者が回覧板を隣家に持っていく。職員は盆踊りなどの行事に参加するほか、防災訓練にも参加している。西地区と武山地区で合同で行われる「福祉バザー」に利用者と共に参加している。中学生の職場体験を受け入れている。ちぎり絵のボランティアの訪問がある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の体験学習を通して地域の子ども達や地域の方々に認知症を身近に感じ理解を深めていただいている。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者家族や地域の代表者に参加していただき、施設の状況報告に対し意見をいただいたり、参加者からの地域情報などを施設ケアの参考にさせていただいている。	運営推進会議は3か月ごとの開催で、民生委員、老人会副会長、地域包括支援センター職員、利用者家族の参加がある。運営報告のほか地域との情報交換や相談を受けることもある。直近では「市の防災放送の聞こえが悪い」との発言で居合わせた市の職員が早速善処してくれた。	地域との連携強化に一定の成果が出ています。これからは事業報告や情報交換だけでなく、認知症ケアの核となる活動や広報の場として運営推進会議を活用することを期待します。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所説明会や実施指導により、意見交換や指導を仰いでいる。	横須賀市の担当課とは集団指導や実地指導の折に意見交換している。外部評価の報告書を届けている。横須賀市グループホーム連絡協議会に参加し、研修などに出席している。全国グループホーム協会や神奈川県グループホーム協会の研修大会で事例の発表を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修などで定期的に学んでおり身体拘束をしないケアについて十分理解していると思われる。	職員には年に1度研修を行っている。言葉による拘束についても常に話している。玄関、門扉は夜間のみ施錠している。居室の窓から出ようとする利用者があるが、施錠はせず、自由に出入できるようにしている。敷地内にある通所介護事業所とも連携して見守りで対応している。また、窓の外には手すりをつけ、安全に配慮している。落ち着いた場合は職員が見守り、近隣の散歩に行くこともある。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修で定期的に学んでいるため、十分理解していると思われる。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修で学んでいるため必要に応じ活用できるよう支援している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結んだり解約する際には十分な説明を行い、不安や疑問が生じていないかを確認しながら理解、納得をいただいている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や事業所会議で話し合う機会を設けているが、普段の来所時でも気軽に話し合える雰囲気を作るよう心がけている。また意見箱の設置もしている。	4月を年度方針や制度改定の説明のための「家族会」とし、9月に「敬老会」として家族を招待している。家族同士の交流を図ると共に意見交換の場としている。日頃利用者家族が来所しているときも、積極的に声掛けをしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設内研修で意見を言う機会を設けているが、日頃からいつでも管理者と話すことができ、意見や提案をできる環境にある。	職員は毎月全体会議の後のユニット会議の席で忌憚ない意見を交換している。また職員用「連絡ノート」には食材の有効活用や節電の方法など、細かな提案が書き込まれ実践されている。管理者は意見が言いやすい環境を作る努力をしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は施設運営に理解を示し、労働環境の向上に努めている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は施設職員の研修等を積極的に推し進め、職員のキャリアアップに協力的である。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	年間を通じて、内部・外部研修や会議などを積極的にすすめ、施設職員及び外部関係者が共に向上出来るように取り組んでいる。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人との面接時間をもち、話を伺う機会を確保している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族との面接の時間をとり家族の要望や悩み事を傾聴する機会を作っている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の話の中から必要としているサービスや支援を見極めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に料理や掃除、洗濯等の家事を行ったり、買物や散歩などで信頼関係を築いている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に受診、衣類の入れ替え、行事の後片付けなどをお願いし共に入居者を支えていく関係を築くよう心がけている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会できるようにしているため家族や友人が気軽に面会にいらっしゃる。	近隣の桜を見に行ったり、ミカン狩りに行ったりしている。自宅を見に行きたいという利用者を連れて行ったこともある。家族や知人の来訪時には湯茶のもてなしのほか、食事やおやつを共にすることもある。同じ法人内で前に通っていたデイサービスに遊びに行くこともある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が自然に寛げるように関係の把握と孤立することのない様に声かけしお互い関わり合い支え合いができるよう努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移動した場合は面会に行ったり、亡くなられた場合は行事などでご遺族を招待し出来る限りその後の関係も保つ様努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一部センター方式を活用し本人に確認、及び家族に伺ったり、意思表示の難しい方には日常生活からその人に望ましいと思われる対応を心掛けている。	入居時のアセスメントのほか、日々の生活の中で思いを汲み取っている。センター方式の「私の履歴書」を使い、職員で情報を共有している。入浴時や昔話をしながら導き出すこともある。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一部センター方式を活用し、本人及び家族から聞き取りを行って経過の把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の毎日の生活の中で確認しながら、心身及び人間関係など総合的に把握するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者、担当者、本人、家族等と話し合い、介護計画を作成し定期的に評価している。	毎月職員で利用者全員のカンファレンスを行い、状況を確認している。介護計画は6か月ごとの見直しを行っている。4月と9月の行事に家族が参加するときに話し合いを行い、介護計画変更の承諾をもらっている。医療関係については、受診時の記録である「医療連絡ノート」を使用し、情報を得ている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援記録、医療情報ノート、ケアプラン実施記録などの個別記録の記入により情報共有を計りながら実践や見直しにつなげている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	パッドなど市の支給を申請している。広い空間を活かし、入居者がプライベートな時間を大事に出来るよう配慮している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ちぎり絵の地域のボランティアの方に月に何度か来ていただいている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科、精神科、歯科の往診を受け、また家族付き添いでかかりつけ医に受診する方もいる。	家族の付き添いでかかりつけ医を受診するほか、ほとんどの利用者が週1回の内科医の訪問診療を受けている。毎週歯科、隔週で精神科、月1回の眼科の訪問診療がある。診療結果は「医療連絡ノート」に記録している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護職員とは業務日誌、看護記録、電話などにより24時間相談対応の体制をとっている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者が入院した場合は、職員が頻回に面会し病院関係者からの情報を得ながら、早期退院へのアプローチを心がけている。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>一年に一回少しずつ終末期のことを考えていただけるように書面を渡し家族と本人の話し合いをもっていただいている。</p>	<p>利用開始時に「看取りの指針」を提示し、了解をもらっている。年に1度再度確認する機会を作って、全家族から書面で再度意向を確認している。家族が希望し医師が協力できると判断した時点で家族と看取り契約を交わしている。職員も看取りの方針について理解し、研修を行っている。これまでに看取りは3件ある。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時や事故発生時の対応マニュアルがある。応急手当の訓練は不規則である。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>施設内研修で定期的に訓練を行っている。法人と地域との協定書はあるが、グループホームと地域との正式な協力体制は出来ていない。</p>	<p>防災訓練は年に3回行っている。10月は夜間想定で消防訓練を行った。法人は町内会と「相互協定」を結んでいる。30年保存可能な「宇宙食」を60人分用意している。地域の防災訓練に参加しているが、事業所の防災訓練に地域の方の参加はまだない。</p>	<p>特に海が近く海拔3メートルという環境下では津波の対策も必要と思われます。今後は防災について地域の方の参加を得られる努力を期待します。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシー 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人の人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を徹底している。記録などはファイルに閉じ管理している。	写真の掲示や研修発表の事例などは家族の了解をとっている。生活歴を考慮し「先生」「部長」と呼ぶこともある。トイレ誘導や入浴の際の声掛けは耳元で呼びかけている。個人情報が入った書類は事務局のカギのかかる場所で管理している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その都度本人に確認したり、説明を行い自分で選択し決めることが出来るよう支援している。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切にしその都度確認しながら、本人の希望に副うよう支援している。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、外出時、行事などでは身だしなみを整えたり、おしゃれができるよう支援している。また出張理美容院を利用している。			
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はほとんどの方が楽しみにしている。一緒に準備をして、食事をしたり片付けをしている。	メニューは職員が作成し、調理を行っている。生協の配達や近隣のスーパーマーケットまで利用者と共に買い物へ行っている。調理や盛り付け、食器拭きなど利用者と共に行っている。1人は必ず検食をし、利用者と共にも同じものを食べている。お寿司の出前を取ったり、外食をしたりすることもある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の形態や量を一人一人に合わせた物を出すようにしている。アルコール類を好まれる方は行事等を出している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後には口腔ケアを行い、口腔内の衛生、義歯の清潔管理に努めている。うまくうがいが出来ない方には歯磨きシートを利用している。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し時間を見ながらトイレへ誘導したり、本人からも気兼ねなくトイレへ行きたいと言える雰囲気をつくっている。	排泄チェック表があり、一人ひとりのパターンを確認し、トイレ誘導している。トイレが5か所あり、昔ながらの使い慣れた表現にするなどして、トイレの場所がわかりやすいよう工夫している。便秘が続く場合などは、医師や看護師と相談し、薬を処方するなどの対応をしている。夕食にリンゴジュースとヨーグルトを出すことで排便しやすくなるよう配慮している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や腹部マッサージなどに取り組み、また繊維質の多い野菜、牛乳、ヨーグルト、オリゴ糖、果物の摂取にも努めている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	できるだけ希望通りに入浴できるように支援している。しかし入浴したい方が入れない時は温タオルで清拭して対応している。	浴室は個浴であるが広く、大きい。各ユニットで雰囲気が違い、檜風呂にリフトが付いている浴槽と浴槽が浅いものがある。重度化した場合はリフト付きの浴槽を使用している。利用者は入浴剤やゆず湯、しょうぶ湯など楽しみにしている。入浴を好まない利用者には「湯加減を見てほしい」と浴室に行き入浴に誘うなど工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室のベッドでいつでも休めるようになっており、布団干し、エアコン、湯たんぽ等も活用し安眠につながるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬の目的、用法、用量を職員が十分理解したうえで服薬支援をしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物、散歩、ちぎり絵等で気分転換をしていただいている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	週二回の買い物や、散歩、家族との外出を楽しんでいただいている。	散歩は個別にほぼ毎日、車椅子の方も行くようにしている。中庭が広く、気候の良い時は外気浴を兼ねたお茶を楽しんでいる。食材の買い出しに利用者に行く時もあり、遠回りしてドライブして帰ることもある。ほぼ毎月イベントを組み込み、遠出をしている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方にはお金を所持していただいている。何か買いたいものがあるときは、預かり金から必要額を出す時もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一名の入居者は携帯電話を持っているため、自由に家族にかけたり、親しい友人からかかってきて話をしている。施設から毎月お便りを出しているが、書ける方には書いていただいている。			
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	閑静な住宅地にあり落ち着いて過ごせる環境にある。建物全体が広く造られているため圧迫感もなく、生活環境は良好と思われる。	日当たりのよい広くて長い廊下にはソファが置かれ、利用者が日光浴を行っている。天井が高く開放感があり、天井の壁にはたくさんのパッチワークキルトが飾られている。ちぎり絵の作品や油絵、壁新聞などが廊下に飾られている。トイレや居間などこまめに掃除され、清潔である。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関や廊下にソファやいすがあり、一人になったり気の合う仲間と寛げるようになっている。			
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に置くものは本人、家族で自由にレイアウトされている。使い慣れた物を配置されている方もいる。	居室には洗面台と物入れが備え付けられている。利用者はベッドや整理ダンス、テレビ、机や椅子、写真や花などを持ち込み、思い思いのレイアウトにしている。居室の掃除は必ず利用者本人の立ち会いの下、共に行うようにしている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は広く車椅子も安全に使用できる。手すりもあり歩行が不安定な方も自力歩行がしやすくなっている。各居室には表札を設置し、トイレ、浴室も分かりやすく表示している。			

事業所名	グループホームつばき
ユニット名	ユニットつばき

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域におけるグループホームの存在意義や入居者およびその家族の思いを踏まえた理念を、事業所内研修や施設内掲示で確認しながら実践している。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	家族会や事業所会議を通じてグループホームのケアを理解して頂いている。また日常生活においても散歩や買い物、地域行事などを通じて交流を深めている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所会議や高齢者シンポジウムにおいてとりくみの発表を行った。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者家族や地域の代表者等に参加して頂き、施設の状況報告への意見や参加者からの地域情報など施設ケアの参考にさせて頂いている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所説明会や実施指導等により、意見交換や指導を仰いでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>部内研修などで学習しており、身体拘束について十分理解しておりケアに取り組んでいる。</p>		
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>カンファレンス等で常に確認しながら防止に努め、部内研修でも学習している。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>部内研修で学習しており、業務上役立てている。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約を結んだり、解約する際には十分な説明を行い、不安や疑問が生じていないかを確認しながら理解や納得を得ている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会や事業所会議で話し合う機会を設け、また普段の来所時でも気軽に話し合える雰囲気を作っている。意見箱を設置している。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体研修会で機会を設けているが、日頃からいつでも管理者と話せる機会があり、意見や提案もできる環境にある。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は施設運営に理解を示し、労働環境の向上に努めている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は施設職員の研修や勉強会を積極的に推し進め、職員のキャリアアップに協力的である。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部研修への参加や、グループホーム連絡協議会の役員会に参加し、交流の機会を作っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する前に本人と面接の機会を持ち、話を伺う機会を確保している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用に至る前に本人との面接を持ち話を聞く機会をつくり、本人や家族への要望や悩み事を傾聴する。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の話し合いのなかから必要としているサービスや支援を見極める。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に料理や掃除洗濯等の家事をやったり、お話や散歩、買い物などを通して両者の信頼関係を構築している。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にもお願いできることはしてもらい、散歩や受診、餅つき等の行事への参加等、手伝ってもらっている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	いつでも面会できるようにしており、家族や友人が来たり、外出も家族同伴で自由である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人一人を理解し、お互いの関係を把握し、また孤立せずにお互いが支え合えるような支援に努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移動した場合は面会に行ったり、亡くなられた場合、その後も行事への招待を家族へ行い、できる限り相談や支援を続けている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	センター方式の活用や本人・家族へ意向を確認している。 意志表示の難しい方には、日常生活からその人に望ましいと思われる対応を心がけている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の活用や本人・家族へ聞き取りを行い、サービスの経過の把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人一人の日常生活の中で確認しながら心身及び総合的に現状を把握するよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	本人・家族・計画作成者を中心に皆で話し合い、取り組んでいる。		
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	支援・経過記録の他、医療ノートを用いて個別記録に記入し、職員全員で実践し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	重度化した為家族の意向で法人内部の事業所（特養）へ移動された方もいる。		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	地域ボランティアによるちぎり絵など月に数回来所され行われている。またお祭り・バザーにも参加し皆で楽しんでいる。		
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	家族協力のもと適切な医療を受診できるように支援している。 往診には内科・歯科・眼科・精神科を受け事業者との関係を築いている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>医療ノートや電話対応により入居者の相談を24時間できる体制をもっている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入居者が入院した場合には、家族と協力しながらできる限り面会し病院側からの情報を得ている。また退院へのアプローチも行っている。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>本人・家族・かかりつけ医との繰り返しの話し合いや、終末期意向アンケートを用いて全員で方針を共有している。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>マニュアルがあり、その都度研修も行っている。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>法人全体やグループホーム内研修において訓練を行っている。グループホームと地域との正式な協力体制はできていない。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格やプライバシーや尊重した言葉かけや対応をしている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その都度確認したり説明をして本人が決められる様にしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切にしながら、都度確認をしたりして、本人の希望に沿うよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時・入浴時・行事等では衣服の選択や化粧などの支援を行っている。理髪店の出張サービスによりヘアカットしている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	必要に応じてメニューを変更したり、誕生会等では事前に好みを聞きメニューを考えている。支度や片付けもできる範囲で一緒に行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事の形態や量は一人一人に合わせている。また状況に合わせて捕食等も用意している。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>3食毎の口腔ケアを行い必要に応じて職員の補助を行っている。また歯科受診を受けている方もいる。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>排泄チェック表の活用を続けており、時間をみながら声掛けを行っている。</p>		
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>体操や散歩・食事やヨーグルト・乳飲料・オリゴ糖・イージーファイバーなどを活用している。排泄時ウォシュレットを使ったり腹部マッサージもしている。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>できるだけ希望に沿うように入浴できるように支援している。シャワー浴や足浴対応も行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>休みたい時は居室で休め、リネン交換・空調機・湯たんぼの使用等、安眠できるようにしている。ベッドに限らずソファでも休んで頂いている。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>個々の薬の目的や副作用、量等をラックに記しており、また各薬の担当を決め職員が十分理解し支援している。</p>		
48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>買い物、ドライブ、散歩や歌、ボランティアの先生によるちぎり絵など行っている。</p>		
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>散歩や外気浴、少人数制による外食、買い物、家族との外出や施設行事での外出・外食等で楽しんで頂いている。</p>		
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>現在は個人で金銭管理をしている方はいない。買い物の際も職員が変わりに支払をしている事が多い。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月のお便りでは代筆という形で書いたりもするが、電話をされる方は現在いない。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い建物・土地と静かな住宅地ということで生活環境は良いと思われる。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関や廊下のソファ、玄関先のベンチ・リビングのソファなどでくつろげるようになっている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に置くものは自由で本人や家族でレイアウトされたり、なじみの物を置かれている方もいる。（花や仏壇など）		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は広く車イスも使用でき、手すりや部屋毎の表札、トイレや風呂の表示もされている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームつばき

作成日 平成25年4月15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	地域との連携強化に認知症ケアの核となる活動や広報の場として運営推進会議を活用する。	地域における、認知症ケアの中核施設となる。	日々の認知症ケアについて、具体的な取組の実践報告をする。	平成25年4月～平成27年3月（2年間）
2	13	防災に関して、地域との連携をもっと強化し住民の参加を訓練の中にも取り入れていく。	近隣住民の防災訓練へ参加	近隣住民の防災訓練の参加を促すための広報等での情報提供	平成25年4月～平成27年3月（2年間）
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。